

第93号

2013.2.28

社会福祉法人 いわき福音協会

福島整肢療養園

〒970-8001

福島県いわき市平上平窪字

古館1番地の2

TEL.0246-25-8131

FAX.0246-22-1259

http://www.ryogoen.jp/

E-mail.info@ryogoen.jp

ひかりの丘

2013年もりようご園を よろしくお願ひします!



1月18日(金)
オープンコミュニケーション発表会



お父さんと
うまくできよう!



おかげさまで
りようご園は
創立60周年を
迎えました

1月23日(水)
グループイベント③「光と香り」



きれいなね



千ヨコのイロおい...
早く食べたいなあ

2月14日(木)
1-3病棟合同行事「バレンタイン」



詳しくは2~3ページへ

目次

皆様に支えられてりようご園は60周年を迎えました — 2-3
「平成二十五年に期すこと」園長 渡邊信雄 — 4
りようご園での社会福祉援助技術実習(社会福祉士現場実習)を終えて
東北福祉大学 関川ルツ子 — 4

HAPPY通信「七五三を行いました」
「ピーターパン寄付について」「千羽鶴のおくりもの」 — 5
治郎先生お疲れさまでした — 6
編集後記 — 6

60th

皆様に支えられてりょうご園は 60周年を迎えました!

福島整肢療護園がここ平窪の地に開設されたのは、昭和27年10月12日のことです。昨年は開設からちょうど60周年にあたり、人間で言えば療護園は還暦を迎えたのでした。

そこで私たちは園内行事委員会を立ち上げ、療護園の創立記念を祝うとともに、その歴史を学び、先人の志を改めて心に刻み付けようと考えました。ただし特別な記念式典を開催するのではなく、療護園に残る数々の資料を発掘し、一同に蒐集して展示することで、療護園の職員のみならず、療護園を訪れる多くの方々に、療護園のことをよく知っていただくことができました。

療護園には、あの元巨人軍監督の長嶋茂雄さんのサインボールや、天才放浪画家、山下清さんのスケッチなどがどこかに眠っていると噂されていました。私たちはまず「お宝探検隊」なるものを結成し、廃棄倉庫などからこれらのお宝を探す事を第一の任務と定め、園内のあちこちを探し回りました。しかし本当に残念ながら、結局これらのお宝は探しあてることができませんでした。そのかわり、埃の被ったパネルや、アルバムなど、何十年も前の療護園の生活を偲ばせる多くのものを発見する事ができました。

実際の展示では、平成24年10月1日(月)から10月26日(金)までの間、療護園の正面玄関からリハビリテーション棟に向かう中央廊下を中心に、たくさんのパネルや写真、大河内先生が療護園の映画を撮るために使った16ミリフィルムのカメラや、大河内先生の胸像など、貴重な資料を並べる事が出来ました。

更に大河内先生が作詞され、当時歌われていた園歌を職員の有志で合唱曲として披露しました。(こちらは12月15日に行われたクリスマス祝会の中で発表しました。)

この60周年記念行事を通して、私たちはもう一度療護園の原点に帰り、これからの療護園のあり方を見つめ直すことができました。

100周年の時に、療護園が多くの方々に支えられてこの地にしっかり立っていただけるよう、今いる私たちは努力していかなくてはならないと思いました。

園内行事委員会委員長 吉原 康

60周年記念行事(展示会)の様子



貴重な資料の数々



展示で大河内先生を知った方も多いのでは!?



様々な功績が新聞に取り上げられました



昔のリハビリに関する展示もありました

リハビリの視点で振り返る60年…。

みなさん、牽引(けんいん)療法ってご存知ですか。痛みの減少や整復などを目的に、整形クリニックや接骨院で首や腰を引っ張る治療法です。遡ると、古代ヒポクラテスが用いていたと言われています。当園でなんと、首を牽引しながら歩行訓練を行っていたことは衝撃的!で、現在では考えられません。しかし、温故知新…近い将来、現在の治療技術にとって変わる新たな奇抜なりハビリ方法が生まれるかも知れません。今回の展示を機に、リハスタッフとして再考と向上を図る良い機会となりました。

60周年を迎えた福島整肢療護園では今後の発展のため、
温故知新の精神を持って60周年記念行事【ふれあいたのしい会・
60周年記念行事(展示会)・クリスマス祝会】を開催しました。



8/4

夏祭り
(ふれあいたのしい会)



移動動物園もやってきました♪

ふれあいたのしい会に、初めて参加しました。キャラクターに扮した方々を回して回るスタンプラリー、素敵な音楽、食べやすく調理していただいた昼食、様々なパフォーマンスに息子が大喜び、撮撮の笑顔のからくりでも親子で大笑いしました。

ながらも、介護職の試食コーナーは大変盛況だったと思います。試食出来たこと息子の食べやすいものの目安がわかり、今では外出時に大活躍です。とても楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

両親 社太郎さんのお母さん
両親 芳江さんより



初めて療護園のクリスマス祝会に参加しましたが、想像していたより、にぎやかだったので、楽しむことが出来ました。それに、米聖の方にお会いするのも初めてだったので、いい経験をしたと思いました。料理もおいしかったので、食べ過ぎてしまいました。

志賀 孝敏くん

12/15

メリークリスマス!
クリスマス祝会



「横須賀海軍病院との繋がり」



クリスマス祝会当日、横須賀海軍病院のスタッフの皆様施設の慰問を受けました。横須賀海軍病院と当園との繋がり、昭和27年の施設創立時まで遡ります。

法人創立者であり当園の初代園長でもある大河内一郎先生は、資金難により施設建設がストップした時に、一面議もない横須賀海軍病院の勤務医であった「アレキサンダー医師」より施設建設資金の寄付を受け、窮地をしのいだとの事です。同じクリスマスチャンであるとの繋がりだけで、このような素晴らしい関係を築けたことは、通信手段が発達していなかった当時としては正に奇跡であったと言えるでしょう。

60年の時を経て再びこのような交流を持てる事の素晴らしさを実感しつつ、今後も定期的な交流を図っていきたいと思います。

「園歌」復活♪♪

昨年夏頃からだったか、朝のラジオ体操の後に「あ〜かる〜いうたの〜♪メ〜ロ〜ディ〜が〜♪」という歌が聞こえてくるようになりました。管理棟や給食の職員は、毎朝食堂でラジオ体操を行っていますが、自動ドアの上に掲示してある「園歌」のメロディを知る人は無く「どういう歌なんだろうねえ?」と常々話題に上がっていました。

この度、60周年行事の一環で園内のお宝探しが始まった折、各部署に眠っていた楽譜が見つかり、吉原先生の編曲で3部構成の合唱曲として平成版の園歌が復活しました。ソプラノの清らかなメロディがアルトの響きで厚みを得、そこにベースの深みが加わることで、まるで昭和の療護園の子供達の姿が目に見えかぶようなハーモニーを奏でています。療護園の精神が感じられるとてもきれいなメロディの曲ですので、皆さんも是非歌ってみてください。

園歌

作詞 大河内一郎
作曲 木原陽子

あかるい歌のメロディーが
光の丘にこだまして
さ霧の朝はあけてゆく
小鳥の影が飛ぶ意を
ひらけはうちに流れる
松のかおりの療護園





光陰矢のごとしと言われ
ますが、早いもので今年も
2月を迎えています。編集
者からは新年の挨拶を依頼
されており、改めて患者様、
御家族様そして職員一同の
御健康と御活躍をお祈り申
上げます。園長職も三年
目を迎えますが、本年も御
指導、御鞭撻をよろしくお
願い申し上げます。

昨年末の総選挙で自民党
が大勝して政権を奪還し、
再登板の安倍総理の下で日
本の政治、経済が大きなエ
ンジン音を立てて動き出し
始めました。先ずは日本の
経済をデフレから脱却して
好景気に誘導しようという
政策のようです。

「経済」は「経世済民」ある
いは「経国済民」を短縮した
言葉で、辞書には世の中を
治め、人民の苦しみを救う
こととあります。消費税増

税を主とした「税と社会保
障の一体化」を提唱した民
主党が大敗した現在、安部
政権の医療、福祉など社会
保障政策がどのようなもの
かまだ見えてきません。東
日本大震災、原発事故から
2年を経ても、復興への確
たる道筋が見えない福島県
そして浜通り地域への国を
挙げての支援に大きく期待
するところです。

いわき福音協会は福島整
肢療養園での肢体不自由児、
重症心身障害児の入所によ
る療育事業から出発しまし
たが、開設から60年を経て
少子高齢化が深刻化し、国
の政策は自立支援、地域化、
在宅化へと向けられています。
療養園でも最近では長期
入院予定の入所はほとんど
なく、重心病棟の入所者は
ほとんどが成人となってい
る半面、リハビリテーショ

ン外来には多くの在宅の重
症児が通っています。重い
障害を負っていても、いつ
も子どもの傍にいたい、自
分の手で子どもを育てたい
と思うのが真の親の心情、
愛情なのだと思えます。見
返りを期待しない保護者の
皆様の姿は、神様を見てい

るような気持ちにさせます。
常に介護と介助が必要と
される保護者が、他の子の
為に、あるいは休養のため
に施設を利用したいとの要
望は至極当然のことと考え
ます。いわき福音協会では
来年度からこのような希望
に添った医療的ケアが可能
な通所事業を開始します。

来年からは新施設でショ
トステイも可能とする予定
です。昨年2月に療養園は
基本理念を「医療をもって
障害児者の療育と支援にあ
たり、地域の福祉に貢献し
ます」と定めました。療養園
は法人の一員として医療的
ケアを支援します。今年の
千支の蛇に負けないように
時代に合わせて脱皮してい
きたいと考えています。



りょうご園での社会福祉援助技術実習(社会福祉士現場実習)を終えて 東北福祉大学 関川ルツ子

このたび、10月から11月に
かけての23日間、現場実習を
させて頂きました。お忙
しい時期に私を受け入れてく
ださった職員の皆様感謝申
上げます。

りょうご園は私にとって、
とても懐かしい場所でした。
というのは、わたしはりょう
ご園の卒園者で、高校2年時
に入園し、平成3年の卒業ま
でお世話になったからです。り
ょうご園にお世話になったのは
急に歩けなくなりました。ま
たからです。それまでの学校に
通うことが難しくなったため、
湊治郎先生にお世話になり、
リハビリをしながら学校に通
わせていただきました。

それまでの私は、普通学校
で特別対応されて、普通のお
友達と違うといつも感じて、
自分に自信がありませんでした。
た、でも、園の友達に障害があっ
ても明るく楽しく個性豊かに
生活していました。

りょうご園に実習をさせて
いただいた、朝会で聖書を読み、
讃美歌を歌い、そのあとのラ
ジオ体操の後にりょうご園の
園歌を歌わせていただきました。
このような中から、りょう
ご園の理念を学ぶことができました。
また実習では、りょうご園の

いろいろな職種の方からお話
を聞くことができました。看護
とは、感情を含めて手当をする
ことであること、PT・OT・
STの取り組みは障害があつ
たとしても、生活を豊かにする
ためのものであり、継続するこ
とがとても大切であること、食
べるもの、飲むものが人間にとつ
て大きな楽しみであること、言
葉だけでなくコミュニケーション
の取り方など、本当に多
くのことを学びました。そして、
現場実習の中で実際の相談支
援を体験することで、支援の困
難さや意義の大きさを感しま
した。

学びながら、私もこのよう
に多くの方々に支援をいただ
いて今があることを知り、り
ょうご園に入ることができて本
当に良かったと思えました。

りょうご園で知り合った
友達は今も一生懸命頑張っ
ています。私は自分のために
も、その一人一人のためにも
自分のできることにについて
今一度考えていきたいと思
います。実習で学んだことは、
私にとって、大きな財産とな
りました。実習は終わしまし
たが、実習で学んだこと、い
ただいた課題をこれからも
考えながら今後を生かしてい
きたいと思えます。

Happy通信

療護園の様々な活動や子どもたちは日頃よりたくさんの方々から支えて頂いております。今回は療護園を支えて下さる方々に関する3つのハッピーをお届け致します。

七五三を行いました

2012年11月12日、1病棟幼稚部の七五三が行われました。昨年の対象の子どもさんは女の子が1名だったため、療護園全体でお祝いしようと、着物を着ての七五三を試みました。

髪は、平にあるスペース美容室の方がボランティアで来園し、髪を結って下さいました。子どもさんは、初めての体験に緊張気味でしたが、鏡を覗き込みながらニコニコ顔。仕上がった後は、療護園スタッフによる着付けをしました。無事に仕度が整うと、多くの職員、子どもさんたちと記念撮影。「可愛い」の声に照れくさそうに、でもうれしそうに目を輝かせていたのが印象的でした。保育で制作した千歳飴袋を持って、飯野八幡宮へお参りに行き、昼は七五三お楽しみ食を食べ、楽しい1日が過ぎました。

大きくなった時、そんな1日を覚えていてくれたらと願うスタッフ一同でした。



ピーターパン寄付について

福島県信用組合協会様が社会貢献活動の一環として取り組まれておられる「ピーターパン寄付」により、当園では平成14年の電動車椅子からはじまり毎年のようにご支援をいただいております。今年度は第1病棟に入所中の児童のために、「視覚障害児用保護ベッド一式」の製作費用を全面的にご支援いただきました。

今回は市販のベッドを改良し、使う児童の目線に立ちながら様々な工夫を凝らして製作をすすめました。そのため、完成までに多くの時間を費やす事となり、協会の皆様へのご報告が遅れてしまいましたが、その分対象児にとっては、使いやすい安住のスペースを確保できました。

ご厚意をお寄せくださった関係各位の皆様へ、この誌面をお借りして改めて感謝を申し上げます。



千羽鶴のおくりもの

昨年11月に新潟県立の農業高校(新発田農業高校他8校)の生徒さんより、当園の利用者に素敵な「千羽鶴」のプレゼントが届きました。これは、大震災と原発事故により困っている隣県の子どもたちのために何か出来ないか？との思いが、農業高校の生徒さんの気持ちを強く振り動かし、今回の「千羽鶴」製作に繋がったようです。

いただいた鶴の数は千羽どころではなく、数千羽にもものぼっておりました。大切に折られたひとつひとつの鶴は、当園の利用者をやさしく見守っており、訪れる人の心を癒してくれています。

折鶴製作に携わった新潟の農業高校の生徒さん、本当にありがとうございました。



治郎先生お疲れさまでした



奥様のフヨさんとのツーショット

◆ 湊治郎先生 略歴 ◆

昭和26年	医師となり、東北大学抗酸菌病研究所でハンセン病の研究に従事。
昭和44年	国立療養所西多賀病院に迎えられ、重症心身障害児の医療に携わる
昭和55年	福島整肢療護園 園長に就任
平成6年～14年	医療に従事しつつ、いわき福音協会理事長を務める
平成24年	福島整肢療護園 退職

湊治郎先生が昨年9月末にご退職され、半年が過ぎ、治郎先生の近況とお話をお伺いしたくご自宅を訪問させていただきました。

ある晴れた日の午後、小高い山の住宅街に入るとお城のような素敵なお宅が目にとびこんできました。まさしく治郎先生のお宅です。逸る気持ちを抑えチャイムを鳴らすと、治郎先生と奥様のフヨさんが素敵な笑顔で迎えて下さいました。玄関を入ると真っ先に視界に飛び込んで来たのはカワイイ猫ちゃんたち数匹。実に6匹も同居しているとの事。

下の写真の一番右の猫ちゃんは、お孫さんと留学先のボストンと一緒に帰国、勝手に「ボストンちゃん」と呼んでみたり和やかな時間を過ごしつつ、いくつか先生にお伺いしてみました。

Q 最近先生がよくされる事は何ですか？

A 本を読んでいます。あとは寝てます…(笑)

Q お散歩等外出はされますか？

A お天気のいい日に家の周りを少しね…

Q これからの療護園(子どもたち)にメッセージを

A ありのままがいい、ありのままの存在、自然のままに影響力のある、そういう存在なんです。



治郎先生お世話になりました。

沖縄の愛楽園でハンセン病患者の医療に従事されていた事など、奥様も交えてお話下さいました。お話をお聴きし、改めて治郎先生の子供達への思いを感じる貴重な時間となりました。そんな治郎先生のおもいで話を職員の事務部片倉次長、退職日に治郎先生を見送った利用者の新妻春希さんに紹介して頂きます。



新妻春希くみからの
※治郎先生への
思い・感想

【治郎先生との思い出】

「入院しているときに、おやつとは別にお饅頭とかを買って食べていた事かな(笑)」

【見送ったときに思ったこと】

「さみしいような気持ちと、この年齢までよく頑張ったなってこと！治郎先生の生きがいがなくならなければいいってことかな！！」

湊治郎先生は、療護園創始者である大河内一郎先生の後を継いで、利用者、保護者、職員等すべての人に愛を持って接して下さいました。治郎先生の文章で「宝さがしとアラさがし」があります。一部を紹介します。

『初めて障害児に出会った人は、子供たちの持つ障害、つまりアラだけを見てしまいがちです。あれも出来ない、これもわからない、何をやらせてもものろまだというわけで、焦ってしまいます。私はある時、じっと一人の重い障害児を抱いていたら、その子が、すばらしい笑顔私に見せてくれました。その時私は、初めて、その子がこんなすばらしい笑顔が出来ることを知ったのです。それは正しく砂漠の中で宝石を見つけた思いでした。この日から私は、宝さがしの医療を始めました。何も出来ないと思っていた重い障害者が、実は沢山のことが出来ることを教えられました。宝さがしの医療のほうが、アラさがしの医療よりも子供たちにとっても、私たちにとっても何百倍も楽しいことでした。』

長い間、子供たちに溢れる愛をありがとうございました。

事務部次長 片倉直美

編集後記

落ち込んでいるとき悩んでいるときに、視点を切り替えポジティブに考える事は、人に自信を取り戻させます。私が悩んでいるとき先輩は、「眠れないときは無理に眠ろうとせず、一人の時間を楽しめばいい」「一度聞いた事を忘れてしまうのは、いつも新しい発見ができるって事」と教えてくれました。この一言は今でも時折思い出し、勇気を与えてくれます。皆さんが元気になれる思い出の一言、ぜひ聞かせてください。(東)

